

SCOUTING

2024
No.761
5

特集

2024(令和6)年度

事業計画

日本連盟新体制スタート

第51回全国ボーイスカウト写真コンテスト



CONTENTS

02 2024（令和6）年度 事業計画

14 「危機管理委員会」を設置
災害即応体制を整備

15 第51回 全国ボーイスカウト写真コンテスト
入賞作品発表！

18 2023年度
スカウト特別海外派遣概要報告

19 2023（令和5）年度
第42回富士スカウト代表表敬

20 夏季活動用ポロシャツ登場

21 ローカルホットライン

23 キャンプ場ガイド

2024（令和6）年度 事業計画

■ 最重点施策

「社会に貢献できるスカウトを育てるための 仕組みを確立する」

2023年度は「社会に貢献できるスカウトを育てるための仕組みを確立する」を最重点施策として取り組み、事業を遂行してきたが、2024年度は「社会に貢献できる」をさらに深堀して、より高いレベルを目指していく。

■ 重点施策

1、「ワクワク自然体験あそび」の全国展開と質の向上

事業を全国展開すると共に、提供プログラムの質を高めて、参加者へ価値をアピールし、満足度を高め、自然体験の魅力を提供し、ボーイスカウトの価値を高める。

2、地域・国際社会に貢献する

ローバースカウト、ベンチャースカウトの育成

スカウトと保護者が憧れる地域社会、国際社会に貢献できるローバースカウト、ベンチャースカウトを育成し、自分と自分の子どもたちの将来の姿を示し、スカウト活動へのモチベーションアップを促すと共に、社会にボーイスカウトの価値をアピールする。

3、第13回日本アグーナリー開催と成功

ダイバーシティ & インクルージョンの具体的な体験ができる13NAを開催、成功させることで日本のボーイスカウトの価値を高める。

4、加盟員、社会への円滑な情報発信・伝達方法の確立と 有効な展開

2023年度にSAJ会員マイページをリリースし、HPを全面リニューアルしたが、さらに使いやすい物にするとともに、コンテンツの充実を進めることで、より有効、効果的な情報伝達を目指す。

5、日本連盟のガバナンス強化

日本連盟の情報開示を推進すると共に、今まで進めてきたガバナンス強化をさらに進めると共に、青少年教育運動に携わる日本連盟をさらに信頼される団体にし、ボーイスカウトの価値を高める。

■ 成果目標 [2025年3月31日現在]

加盟登録者数 **77,700人以上**

全体新規加盟者数 **9,700人以上** [2024年4月1日~2025年3月31日]

全体未継続者数 **9,700人以下** [2025年3月31日]

その実現のために

■ 日本連盟が展開する施策、実施する事業

1 公益事業として

1 教育計画の策定および運営事業（公1事業）

(1) 諸会議の開催

県連盟代表者会議、全国事務局長会議、全国県コミッショナー会議、全国組織拡充委員長会合、宗教代表者会議

評議員会、理事会、教育推進本部関連会議、各種委員会、特別委員会、各連絡会議、RCJ 運営委員会、名誉会議、常設委員会合同ミーティングなど

(2) 組織拡充県連盟支援事業

(3) 募金関連事業

ボーイスカウトNEWS 発行、感謝盾・感謝章贈呈、カレンダー送付など

(4) 「ともに進もう助成プログラム」事業

(5) 「防災キャラバン」展開事業

(6) 「スカウトと社会をつなぐ場所」事業

(7) 「人生の岐路に立つ君へ」事業

(8) 顕彰事業

富士スカウト章、宗教章、ローバースカウト顕彰など

(9) ローバースカウト研修開催事業

(10) その他教育計画の策定および運営事業

地球環境保全、保護および教育事業

「スカウトの日」、アースライブ展開など

(11) BS の特性を活かした自然体験活動開催事業

「ワクワク自然体験あそび」、全国子ども体験フォーラムなど

(12) 教育に必要な施設の提供事業

那須野営場、高萩スカウトフィールド、スカウト会館など

(13) 集会および講演会の開催事業

13NA 開催、ローバースカウトムート2024開催、

全国スカウトフォーラム開催、19NSJ 開催準備など

(14) 共済事業

共済事業、AED 配置補助事業、安全促進フォーラム、SfH 推進フォーラムなど

2 BS 運動の普及および広報事業（公2事業）

(1) 普及事業

普及資料作成、表彰、写真・ムービーコンテスト、PR 戦略展開、スカウトミュージアムなど

(2) 図書雑誌刊行、電子情報発信事業

出版物刊行、雑誌刊行（電子版含む）、HP 発信、マイページ運用など

3 指導者養成事業（公3事業）

(1) 全国大会（全国スカウト教育会議含む）開催事業

(2) 新指導者養成体制の充実事業

(3) 県連盟開設指導者養成事業支援

BS 講習会、WB 研修所、団委員研修所、コミッショナーベーシックトレーニングなど

(4) 県連盟指導者養成資金補助事業

(5) 日本連盟指導者訓練事業

WB 実修所、団員実修所、LTC・ALTC、ウッドクラフトコース、任務別研修（県コミッショナー）、所長・主任訓練コース

(6) トレーニングチーム育成事業

トレーニングチーム会議、トレーナー研究集会、その他集会開催など

4 国際相互理解、国際協力事業（公4事業）

(1) 海外ナショナルジャンボリー等派遣事業

(2) 日韓スカウト交歓事業

(3) CJK ベンチャープロジェクト事業

(4) スカウト海外派遣事業

(5) APR サミット派遣事業

(6) 世界スカウト会議派遣事業

(7) 世界に通用する人材育成事業

(8) APR ワークショップ開催支援事業

(9) CJK 事務局長会議開催事業

(10) JOTA-JOTI 展開事業

(11) 26WSJ 派遣準備事業

(12) その他国際相互理解、国際協力事業

2 収益事業として

日本連盟の財政基盤を支える収益事業

不動産賃貸、業務受託事業など

3 登録事業として

加盟員管理、サービスのための登録事業など

4 管理事業として

公益事業を支える日本連盟管理事業

事務局運営業務など



理事長
水野 正人

2024年度事業推進に向けて

はじめに、2024年能登半島地震において被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

2月10日にボーイスカウト石川県連盟が珠洲市のジャンボリー開催地域に立上げた復興支援現地本部で、3月31日を目途に募った災害支援ボランティアは、石川県連盟、他全国からの参加を合わせて約200人の方々に参加いただきました。ご参加いただいた皆様に感謝いたします。4月以降も拠点を新たにして支援活動が継続されており、支援活動への呼びかけを行っています。引き続き、支援ボランティア、義援金、見舞金、支援金へのご協力をお願いいたします。

また、4月3日に台湾東部沿岸を震源とする地震が発生しました。これまでも日本の多くのスカウト・指導者が、台湾のスカウト仲間とさまざまな交流をし、友情を深めてきました。一日も早く救援、復旧活動が進むことを祈念し、私たちにできる支援等を進めていくとともに、これからも起きうる災害に対して、私たちがさまざまな支援・対応を迅速に取り組めるようにしていきたいと思います。

さて、今年度の事業計画は、昨年度からの第3期中長期計画をベースに立案し、最重点施策は、「社会に貢献できるスカウトを育てるための仕組みを確立する」としました。「社会に貢献できるスカウト」とは、「社会に頼られる、信頼されるスカウト」であり、中長期計画では、このための方策の一つとして、地域で活動する団体や企業との連携・相互協力関係の構築を進めることとしています。地域でのつながりを促進することは、スカウト活動に大きな刺激を与え、スカウトたちが地域をより深く知り、興味を持つ機会となると思います。本年度は「仕組みを確立する」ための一年として各事業を推進してまいります。

最重点施策に続いて重点施策が5つあります。その中で第一にコロナ禍から注力している「ワクワク自然体験あそび」の全国展開と質の向上を掲げました。スカウト

運動が子どもたちに「体験活動」を提供し、個々の成長を促すものであることを地域にアピールし、ボーイスカウトの価値を高められるように推進します。そのためにも「全国」での展開を目指し、提供する活動（プログラム）などの質の向上を図れるように、日本連盟では引き続き支援を進めてまいります。この結果として、加盟員の増加や新しい団の発足の機運が高まることなどの組織拡充に期待します。

他の重点施策では、「地域・国際社会に貢献するローバースカウト、ベンチャースカウトの育成」を掲げました。最重点施策を進めるうえでの教育、特に社会へも羽ばたいていくローバースカウト、ベンチャースカウトに焦点を当てていますが、昨年度、日本連盟では「スカウト・青年の参画方針」を策定、発行しました。本年度はこれを促進していく年になります。今年の8月にエジプトで第43回世界スカウト会議が開催されますが、今回、世界スカウト会議と世界スカウトユースフォーラムを統合して開催されます。これは、スカウティングはスカウトが参画するものであることを反映するものとなります。また、こういった仕組みは、若者だけでなく成人にも関連することから、日本連盟では、11月にアジア太平洋地域 AIS (アダルト・イン・スカウティング) ワークショップを福岡で開催し、他の国連盟などの AIS 事例等を積極的に学ぶ機会を設けていきます。

この他の重点施策の中では、コロナ禍において延期をした第13回日本アグーナリーがいよいよ8月に福島県で開催し、障がいについての理解を深め、共生の大切を体感、学んでいくことを目指してまいります。そして、今年度よりダイバーシティ & インクルージョン特別委員会を設置して、多様性の中でのスカウティングについて調査、研究を行ってまいります。

以上のとおり、今年度の事業を推進してまいりますので、日本のスカウト運動発展のため、さらなるご理解とご協力をお願い申し上げます。



総コミッショナー
村田 禎章

2024年度の初頭にあたって

2024年は元日の能登半島地震発生により大変な幕開けとなりました。

お亡くなりになられた皆様に哀悼の意を表するとともに、被災された皆様にお見舞いを申し上げます。

能登半島地震については、石川県連盟をはじめ近隣県の多数の加盟員が被災されました。また、第9回日本アグーナリー、第14回、第17回と三度にわたり日本スカウトジャンボリーなどの開催でお世話になった珠洲市が主な被災地の一つとなりました。

石川県連盟による珠洲市での復興支援現地本部開設に伴い、全国の指導者、ローバースカウトにより、石川県連盟の支援活動にご協力をいただきました。石川県連盟の皆様、全国から珠洲市に馳せ参じていただいた加盟員の皆様には厚く御礼を申し上げます。

義援金募金、支援金・見舞金によるご支援も多数回、多額に上っておりますことにも御礼を申し上げます。

復旧、復興までまだまだ時間がかかります。今後も引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

昨年度、教育推進本部ではWOSM方針、第3期中長期計画等に則り「スカウト・青年の参画方針」「スカウト運動の成人に関する方針（日本版 AIS）」を策定しました。

現代の青少年を取り巻く生活環境、社会状況、保護者や社会から求められるものをよく検討分析し、今後のスカウティングに活かしていくことが必要であることは周知のとおりです。その中で特に「スカウト・青

年の参画方針」について具体的にスカウト活動において展開することが重要であると考えています。

プログラムプロセスは意思決定と行動のプロセスであり、スカウトによる自治の体験の重要な機会です。班（組）、隊での活動において意思決定への参画を体験し、家庭、職域、地域社会・国際社会に能動的に関与することにより「Creating a Better World」に取り組む人材を育成すること、即ちスカウティングの目的を達成するための重要な方法であることをご理解いただきスカウトへのご指導をお願いします。

また、「スカウト運動の成人に関する方針」においても今後具体的な対応、行動についてお示しできるよう準備を進めております。指導者の不足等により、特定の指導者に過度の負担を長期間強いるような体制での運営は長続きせず、また後任者を得ることも難しくなります。それらを解消するためにも、皆様のご支援を賜りたくお願いを申し上げます。

激甚災害の頻発、国際情勢の不安定化、自然環境の悪化、経済環境の激変などさまざまな課題がある中、スカウト運動はそれらに対応し、他者や社会のために尽くすことができる精神、知識、技能をもった青少年を育成することのできる教育システムであることを改めて確認し、取り組んで参りましょう。

本年度もなにとぞよろしく願い申し上げます。

2024-2025年度

理事・監事

任期：2024年5月24日～2026年度定時評議員会まで

理事長

水野 正人

副理事長

大坪 文雄

三毛 兼承

専務理事

出田 行徳

常務理事

和田 剛和（共済委員長）

理事

村田 禎章（総コミッショナー）

木村 寿宏（副総コミッショナー）

松平 頼昌（国際コミッショナー）

川瀬 政美（プログラムコミッショナー兼プログラム委員長）

吉野 博樹（AIS コミッショナー兼 AIS 委員長）

磯山 友幸（総務委員長）

高見 和宏（財務委員長）

木村 直登（広報委員長）

氏家 邦政（組織拡充委員長）

井上 義雄（フアンドレイジング委員長）

水戸守 雅之（法務担当）

只野 太一（DX 担当）

田村 聡子（ダイバーシティ & インクルージョン特別委員長）

八巻 知子（信仰奨励小委員長）

池田 美夏

菊池 桐子

小池 さくら

西尾 亜希子

山本 照恵

監事

相原 光治

熊坂 博幸

樽谷 進

2024-2025年度

教育推進本部員

任期：2024年4月1日～2026年3月31日

総コミッショナー

村田 禎章（奈良）

副総コミッショナー

木村 寿宏（神奈川）

国際コミッショナー

松平 頼昌（東京）

プログラムコミッショナー

川瀬 政美（大阪）

AISコミッショナー

吉野 博樹（愛知）

特命コミッショナー

森地 一夫（兵庫）

ブロック統括コミッショナー

三浦 雅人（青森／北海道・東北ブロック）

中牟田 和彦（埼玉／関東ブロック）

澤田 浩久（静岡／中部ブロック）

谷口 平八朗（京都／近畿ブロック）

高村 義則（山口／中国・四国ブロック）

真田 康広（大分／九州・沖縄ブロック）

副総コミッショナーごあいさつ



副総コミッショナー

木村 寿宏

神奈川・川崎第54団 所属

4月1日付けで副総コミッショナーを仰せつかりました。昨年度まで組織拡充委員長を4年間務めておりましたが、その際には多くの皆様にお世話になりました。この場を借りて、お礼を申し上げます。

改めて、この職の使命を考えると責任の重さを痛感しております。村田総コミッショナーの御指導をいただきながら、全国におよそ970人いらっしゃる

全てのコミッショナーの皆様と共に日本のスカウティングの発展に全力で取り組みますので、よろしく願いいたします。

昨年度、日本連盟では第3期中長期計画「新たな100年に向けての挑戦—地域と共に歩み、社会課題の解決に貢献するスカウティングを目指して—」を策定しました。スカウティングは地域に根差すことなくして存在し得ません。このことを私たち一人ひとりが、今、再度認識する必要があります。その上で、この運動に関わる全ての成

人は、地域社会の一員として、防災、平和、人権、脱炭素などの社会課題の解決に自ら貢献しようとする青少年を育てるのだという強い意志を持たなければなりません。これこそが、スカウティングの価値であり、スカウトが幸福な人生を歩むことに繋がると考えるからです。

そのためには、社会が目まぐるしく変わっていく中であって、原理原則をしっかりと守りながらも、時代の変化に柔軟に対応していくことが大切です。変えてはならないことは自信をもって変えない。一方、時代の流れや社会の変化に応じて、繊細にしかし大胆に変わっていくことも必要です。

私には「この運動に関わった青少年は必ず幸福な人生歩むことができる。そして、この運動に関わる人が増えれば必ずこの世界はより良くなる」という信念があります。時代の流れを敏感に感じつつ、この信念をどんな時も貫き通し副総コミッショナーの職に真摯に向き合っておりま。そして、全てのスカウトが、いや、この運動に関わった全ての人が幸福な人生を歩むこととなるように、そして、この世界がより良くなるよう微力ではありますが、ベストを尽くすことをお誓い申し上げて、就任にあたってのご挨拶とさせていただきます。

新任理事のごあいさつ



池田 美夏

大阪・東大阪第6団 所属

今期より理事を拝命いたしました、池田美夏（いけだみか）と申します。所属は大阪連盟です。ビーバースカウトから活動を始め、ボーイスカウト活動を通じてたくさんの挑戦をまいりました。現在はローバースカウトとして地区や県連盟、全国など活動の幅を広げており、今後は理事としても、新しい挑戦を始めようとしています。

近頃、さまざまなコミュニティで「若者の意見が欲しい」という声を聞くようになりました。私たちのような年代の意見より、経験豊富な先輩方の意見の方が大切であると私は思っているのですが、世の中の流れはそうではないのかもしれない、と最近感じています。

そのような中でお声がけをいただき、これまでの経験を通じて得たものから出てくる私の考えが、「若者の意見」として多角的な視点の一つになり、何かのきっかけになることができればと思い、理事になることを決意いたしました。

私事ながらこの春より晴れて社会人になり、理事として、社会人としても、新しいことが絶えない日々ではありますが、学ぶことを忘れず、与えられた役務を全うできればと考えております。

日々ご支援をいただいている指導者の皆様、ローバースカウトの先輩方からするとまだまだ未熟者で至らない点多々あるかと思いますが、今後ともご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



氏家 邦政

愛知・半田第3団 所属

新任理事就任にあたり

「若葉のもえたつ 那須野ヶ原に 集いて極めん スカウトの道」

「行く手は遙かに 荒れすさむとも 貫きてこそ道となりぬれ」

本年度新たに理事に選任いただきました氏家邦政と申します。所属は愛知連盟です。本年度の新規就任理事の中では最年長ということで、若い方々に比べると見劣りするの否めませんが、この十数年、県連盟及び日本連盟のコミッショナーグループをメイ

ンに活動してまいりましたので、その経験を本任期中に生かしていければと思っております。

冒頭の詞は「わが道を貫く」の歌詞です。一番是那須野宮場の美しい情景とスカウティングの身上を綴っています。対して二番はこの運動に携わる者へ覚悟を持って取り組むよういざなっているようで、特に二番の歌詞に惹かれます。私も覚悟をもって、与えられた役務に及ばずながら精一杯取り組ませていただく所存です。よろしくお願い申し上げます。



菊池 桐子

岩手・釜石第2団 所属

このたび理事を拝命いたしました、岩手連盟釜石第2団の菊池桐子(きくちとうこ)と申します。

これまで隊指導者、RCJ 県代表・運営委員を経験し、そのほかプログラム委員会RS・VS部門プログラム検討タスクチームに参席し、ローバースカウトハンドブックやスタートセミナーなど、ローバースカウトが使いやすく理解しやすい資料の作成に関わり、私たちは社会の一員としてなにが出来るか、なにを求められているかなど改めて考える機会を多く頂きました。

さまざまな課題がある中で、小規模県連盟のスカウト活動衰退とスカウト・指導者数減少に注目しました。これまで団会議などに参加し自団や県内各団の状況、RCJ 運営委員で全国の活動状況を見てきました。全国的に問題となっているスカウト数減少だけ

でなく指導者数も減少しているためスカウト活動や団継続に影響が出ていると小規模県連盟に所属しているので強く感じます。

また、災害が増えてきている今、防災活動は非常に大切です。私自身、東日本大震災の経験をへて防災士を取得しました。自団での防災活動や昨年開催したローバー集合訓練を見ても災害を経験したことのないスカウトが多くいます。これまでに学んだスカウト活動が防災に役立つということを全国のスカウトに伝えていきたいです。

社会から求められるスカウト活動になるように、精一杯努めてまいります。

未熟な部分が多くありますが、皆様のご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。



木村 直登

東京・昭島第1団 所属

このたび日本連盟の理事を拝命しました、木村直登と申します。私はビーバーからスカウト活動を始め現在は28歳になりました。

そんな私のスカウト人生の中で大きな衝撃を受けた出来事があります。それは大学生の時にスイスに留学し、現地のスカウトと共に活動をした時のことです。同じスカウト運動のはずなのに彼らの活動は日本で経験してきた活動とは大きく異なりました。たとえば都度の集会のセレモニーなんてものは存在せず、スカウトスキルについてもあまりそれ自体には固執していないように見えました。日本のスカウト活動の思想に凝り固まった私は当初は「こんなんでいいのか」と悶々としていましたが、最終的にはスイスの

スカウティングも日本のスカウティングも本質的には何も変わらないことに気づきました。本質は変わらず、異なるのは“手段”のみです。

さて、改めて日本のスカウト運動に目を向けるとガラパゴス化した“手段”が多く見受けられるように感じます。それら手段はスカウト運動の本質に即したものでしょうか、時代に即したものでしょうか、一般社会からのニーズに応えるものでしょうか。

理事としては比較的若いとされる私でさえも、頭・思想が凝り固まっていることがあります。私自身よく考え、常識を疑いながら理事としての責務を全うできればと考えております。



高見 和宏

福井・福井第7団 所属

ボーイスカウト日本連盟が栄えある100周年を迎え、次の100年に向けたスタートを切り出したこの大切な時期に理事を務めさせていただくこととなりました。その責務に身の引き締まる思いを持つと同時に、スカウト運動を今よりももっと前進させていきたいという決意を新たにしております。

各団や県連盟などが抱える課題に対し日本連盟として何をすべきか、何が出来るのか、常にその問題意識を持ちながら、職務に励んでまいります。

社会環境は日々変化していきます。我々が信じるスカウト運動も、その原理原則は不変であろうと、展開方法は常にアップデートしなければ、時代と共に埋没する危険性があります。皆さんとともに考え、協

働し、さらに前進するよう努めたいと思います。

本年元日に起きた能登半島地震により、今も多数の被災された方が生活に困っておられます。先日訪れた珠洲の町は、ジャンボリーの時とは変わり果てた風景でした。しかし、懸命にボランティアで汗を流すローバースカウトの姿はとても頼もしく、スカウティングの共助の精神はこうして脈々と続いているととても嬉しく思いました。我々の携わるこの運動は必ず社会に必要なものです。希望を持ち、そう強く信じて、全国の一人でも多くの青少年にスカウティングを経験してもらえよう、日本連盟の一員として精一杯努めてまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。



只野 太一

東京・渋谷第14団 所属

DX 担当の只野太一と申します。

コロナ禍ではテレワークが一気に浸透し、会議もオンラインで行うことが一般化しました。この波はボーイスカウトにも影響を与え、様々なシーンでデジタル化が進みました。

全国の団や地区ではデジタルツール配布プログラムを通じて WEB 会議やファイル共有システムを活用いただいています。2020年には全国大会が完全オンラインで開催されたことは記憶に新しいところです。

このように局所的にはデジタル化が進んでいるものの、組織としての取り組みはまだまだできることがたくさんあります。

DX (デジタル・トランスフォーメーション) は組織とし

て新しい価値観や変革を生み出すことが目的です。

昨年リリースされた「SAJ 会員マイページ」には登録番号が二次元バーコードで表示されるようになりました。二次元バーコードをスキャンすることで様々な事ができるようになります。可能性は限り無く広がっています。

「スカウティング x デジタル」でスカウト運動はまだまだ発展していけると信じています。

2019年より DX 推進室メンバーとして、また2022年からは DX 小委員会委員として日本連盟のデジタル分野に関わった専門性を活かし、スカウト運動をさらに推進していけるように精進して参りますので、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



田村 聡子

奈良・奈良第4団 所属

2024年度、新たに理事の任に就任いたしました田村聡子と申します。微力ではございますがスカウト運動の推進をめざして精一杯務めさせていただきます。どうかよろしく願いいたします。

私がスカウト運動に関わらせていただいたのは、1998 (平成10) 年のことでした。娘がビーバー隊に入隊したのをきっかけに保護者として団のお手伝いに参加したことに始まります。カブ隊のデンリーダーを経て、カブ隊の指導者 (副長) になり、ボーイ隊の副長から隊長を務めて現在に至ります。

その間に私に起こったことは、研修のシステムにすっかりはまってしまったということです。沸き起こる好奇心と探求心に加えて、周囲の方々のご助言に従

い、「指導者講習会」「研修所」「実修所」を修了しました。指導者としてスカウトと共に成長する感動を味わいました。

4年に一度の日本ジャンボリーや山口県で行われた世界ジャンボリーなどに参加する毎に、たくさんの人とのめぐり逢いがあり、目を見張るほどのスカウトの成長に携わることで多くの刺激を受けました。

何より、「社会に役立つ、健全な青少年を育成する」運動に私自身の知見がほんの少しでも役に立つことができることに、大きな喜びを覚えます。

どうか、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



八巻 知子

静岡・三島第14団 所属

このたび、2024年度より理事としてのお役目をいただき、身の引き締まる思いです。

私は小学生の頃からガールスカウトとして活動し、仲間とともに一つのことを成し遂げた喜びを共有し、当時の指導者からは愛情深く育てていただき、成人になってから現在までボーイスカウト運動に参画しています。これまで数多くのことを経験し、楽しいことや苦しいことさまざまありましたが、いつもどんな時も必ず寄り添ってくれた家族や多くの先輩、仲間を支えていただいたおかげでここまで続けてくることができております。

2022年度、ボーイスカウト日本連盟は創立から100周年を迎え、2023年度には「新たな100年に向けての挑戦」ということで10年間を見据えた中長

期計画が策定され、地域と共に歩み、社会課題の解決に貢献するスカウティングを目指していくことになりました。

この意味は、スカウトの活動に関わる全ての人が、必ず幸福な人生を歩み、この活動に関わる人が増えれば必ず世界はより良くなるという思いを共有しようということです。ボーイスカウト運動は地域社会と密接に連携し、共存してこそ、地域社会から信頼され奉仕活動に参画することができるのだと思っています。

中長期計画を正しく理解し、具体的に自分自身がどのように行動していくのか一つ一つを考えながら実践していくなかで皆様とともに作り上げ、次世代を担うスカウトへ明るい未来への一助となる決意です。

日本連盟 常設委員会

日本連盟には8つの常設委員会があります。常設委員会はそれぞれに役割を担い、特別委員会、小委員会やタスクチームなどとともにスカウト運動発展のため相互に協働します。本年4月より2年間の任期となる委員会が新体制となり動き始めました。今号では、8つの常設委員会が取り組む今年度の事業指針を各委員長から、また、今年度の新設された「ダイバーシティ & インクルージョン特別委員会」委員長とDXタスクチーム長からご紹介いたします。

■ 総務委員会



委員長

磯山 友幸
(日本連盟)

新体制で改革の総仕上げへ

今から6年前、2018年1月の理事会で「財政再建及び組織改革に関する基本方針」を決定しました。基本方針では7項目を掲げ、付随するさまざまな改革を実行しました。

スカウト用品を扱うボーイスカウト・エンタープライズは、日本連盟に対する未払金を完済し、毎年多額の収益を日本連盟にもたらす組織に生まれ変わりました。企業ならば儲けた収益は株主などに分配され外部流出しますが、スカウトショップで皆さんが購入したものの収益は、すべてスカウト運動に還元されています。

事務局として使っていた後楽園 SAJ ビルを賃貸化したことや、現在の事務局の隣接地にあるビルを購入したことで、安定的な家賃収入が入るようになり、これもスカウト運動を支える貴重な原資になっています。

事務局のDXを一気に進めるなど、事務の効率化を進め、事務局体制を刷新したほか、登録システムの見直しや共済事務の委託先変更など、時代の変化に対応した改革も緒につきました。

そして、ガバナンス、つまり組織体制のあり方の見直し、今年度の新体制から動き出します。女性や若者の理事会参画を準備してきましたが、いよいよ5月の全国大会時に交代する新理事会では、24人の理事のうち、女性が8人、20歳代が4人と、一気に多様化が進みます。新しい皮袋に新しい酒を注ぐことが6年にしてできたというわけです。

問題はここからが本番です。スカウト運動をより広く社会に広げていくために、若い理事や委員がどう積極的に活躍するか。少子化など外部環境は一段と悪化する中で、さらなる改革を続けることが必要になります。

総務委員会は専務理事、常務理事、総コミッショナー、副総コミッショナーのほか、運営系の委員長他が加わり、月に1度オンラインで各委員会の活動の調整などを行っています。

2年後にはさらに若返りを進める予定で、着々と改革を軌道に乗せて参ります。皆さまのご理解とご支援をお願いいたします。

■ 財務委員会



委員長

高見 和宏
(福井)

財務委員会では、公益法人会計基準に則り、透明性の高い法人運営をしっかりと進めてまいります。適切な財政状況を維持し、加盟員減少から転ずるための各種施策・事業を丁寧に点検し、その有効性を向上させるよう努めてまいります。

特に第3期中長期計画に記載の34の重点事業が確実に推進されるよう、理事会への予算上程とその執行管理の責任を担います。従って、近々設けられる施策評価委員会の評価を基に、財務委員会としても予算・決算ともにこれまで以上にしっかりと議論を重ねていきます。全国の加盟員からお預かりする登録料収入を大切に、全委員会・事務局と共に創意工夫で経費節減に臨み、時には硬直化しがちな予算配分をゼロベースで見直すことも必要と考えております。環境の変化や事業の重点を見定め、新たな施策に挑戦する予算も上程できるよう各種委員会と協議・連携してまいります。

また、中長期計画における財務関係のミッションとして、①歳入における加盟登録料の割合を下げ外部資金を獲得するための取組み②日本連盟保有資産の有効活用に関する取組みを鋭意進めてまいります。

加盟登録料に依存した収入財源では、加盟員が減れば事業が縮小し、場合によれば実施できなくなります。そうした状況にならないために我々のスカウティングの価値に共感し応援してくれる寄付や協賛、補助金などの割合を徐々に拡大していかなければなりません。拡大新設されるファンドレイジング委員会と協力して進めてまいります。資金醸成は何より全国7万余人の全ての加盟員、そしてこの運動に心を寄せる関係の皆さまのお力添えがなければ成功しません。何卒一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

日本連盟保有資産としては、いくつかの野営場や不動産の維持管理を将来に向けてどう展開していくのが課題となっております。社会環境の変化に合わせて、しっかりと見直しを進めてまいります。

また、各都道府県連盟の財政についても先々決して楽観はできないものと思います。今期にはその課題共有を行い、この先も長く維持もしくは活性化する施策をともに考えていきたいと思っております。ぜひ、皆さまの建設的なご意見やご提案をお寄せくださいますようお願いいたします。

■ 共済委員会



委員長

和田 剛和
(宮城)

『そなえよつねに共済』事業は、共済加入者数は加盟員減少に伴って減少しています。他方、スカウト活動はコロナ禍があけて通年に近い形に戻る中、事故発生に伴う共済金の支払額は、増加傾向にあります。中でも指導者による重症例や後遺障害などの事案もあり、今後もその動向を注視し、スカウトに負担が増えないよう検討していく必要があります。また、円滑な共済事業運営に努めるべく、専門的な学識者による「共済支払い審査会」の立ち上げを検討してまいります。

そして、2024年4月からコンサルティングならびに業務委託を行っていた委託先を変更し、新しい委託先でのスタートになりました。委託先変更においてもスムーズな移行完了を目指します。また、今後さらに業務内容を見直して経費削減も検討してまいりたいと思います。

また、再保険については、その保険料が登録人数に応じて毎年発生していますが、日本連盟の準備金にはまだ不足感があり、今後も再保険の加入の必要性を引き続き検討してまいります。

安全普及啓発活動においては、まず「安全促進フォーラム」事業について、ボーイスカウト活動における安全の促進により、事故発生件数の低減化を図り、日本連盟が構築した「安全確保と補償のシステムループ」の理解

を広めるため、前年同様に、年間5回の「安全促進フォーラム」の開催を計画しています。また、この促進フォーラム参加者自らが団や地区で推進する「安全普及フォーラム」の開催を促進しその資料提供等のバックアップを行ってまいります。

「セーフ・フロム・ハーム推進フォーラム」事業については、前年同様年間5回のフォーラムを担当する委員会または会議体へ予算支援をしてまいります。そして県連盟主催の「セーフ・フロム・ハームセミナー」開催には、例年同様の資料提供等の予算支援を行ってまいります。

また、「安心・安全講座」事業については、前年同様、スカウティング誌に掲載する「野外活動のための安心・安全講座」の合本電子化や、セーフ・フロム・ハームの研修プログラムの改修についてセーフ・フロム・ハーム推進協議会への予算支援をいたします。また、引き続き全県連盟に対するAEDトレーニングキットの配付および希望のあった県連盟に対するAEDの再配備に伴う一部経費の補助を行ってまいります。

スカウト活動の安心・安全を第一に見据え、さまざまな事案に積極果敢に取り組んでまいり所存です。皆さまのご指導、ご協力を今後ともよろしくお願い申し上げます。

■ 広報委員会



委員長

木村 直登
(東京)

このたび日本連盟広報委員長を拝命しました、木村直登と申します。私の本職はマーケターです。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、我々はその名のとおり広報を担う委員会ですが、本来広報は手段であり目的ではありません。したがって広報活動は都度の目的・状況に応じて、「なぜ・誰が・何を・いつ・どの媒体で・どのように伝えたいのか」を最適化し実施される必要があると考えています。

これはマーケティングにも共通する考え方であり、管見ながらこれまでの日本におけるスカウト活動では概して広報の目的（マーケティング的発想、訴求相手に応じたメッセージの最適化）が十分に担保されずに画一的な広報活動がなされていたのではと感じております。例えば、新規加盟員獲得を目的とした広報活動を想起する際、言わずもがなビーバースカウト部門とローバースカウト部門では当事者の年齢・取り巻く社会環境は大きく異なる上、最終的に加盟を決定する意思決定者も保護者か当事者かで異なります。そのため、卑近な例でいえば「なるう一人前」のようなコンセプトはビーバースカウト部門などの保護者への訴求には有効かもしれませんが、ローバースカウト部門構成年代のスカウト自身に対

しては訴求力が不十分であると推察されます。したがって、伝える相手に応じて訴求メッセージは最適化されて然るべきであり、その最適化を下支えするのが広報活動の目的および我々の顧客（スカウト、保護者、指導者、支援者、地域社会）についての理解です。

そこで2024年度広報委員会では明確に我々の委員会のゴールを定めます。このゴールは個々の広報活動の目的としてブレイクダウンされていく根幹となる部分です。我々のゴールは、「アクティブスカウト（実際に活動するスカウト≒アクティブユーザー）を増やす仕組みの構築」と定めます。アクティブスカウトを増やすために対内的・対外的広報それぞれ推進して参ります。また、そのための重点施策要素として「情報伝達の質の向上×対外的量の増加×対内的速度の向上」の3つを掲げます。特に重視する点は質の向上、すなわち先述のマーケティング的発想に基づいた戦略的広報活動です。広報の質を高めるためには、情報を伝える相手である「顧客」についての理解が必要不可欠です。そしてこれらを全国の広報委員会・加盟員一丸で推進できる仕組みづくりこそ、我々のゴールに位置づけられるものと考えています。全国一丸でマーケティングしていきましょう。

■ 組織拡充委員会



委員長
氏家 邦政
(愛知)

本年度の組織拡充委員会の運営は、第3期中長期計画の重点事業の推進を軸に進めてまいりたいと思います。「地域の青少年に体験活動を提供する取組み」につきましては、既にワクワク自然体験あそびを通じて多くの団において取り組んでいただいております。昨年度の登録数は1,100会場を超え一昨年度を大きく上回りました。その中には全団において開催いただいている県連盟もあり、制度が確実に浸透していると感じています。しかしながら会場数を団数で割った割合は全国平均で4割強となっており、未だ開催をされていない団が多くを占めるのが状況です。本年度は開催割合を高めるべく、全国の先進事例、優良事例を皆様と共有する取組みを進めるとともに、今後の展開を見据えて「自然体験」以外のさまざまな体験活動が提供できるよう研究を進めてまいりたいと考えています。すでに多数回開催された団の皆様につきましては、開催後の評価を適切に行っていただき、それぞれの地域の要望に応えられるよう内容の深化をお願いいたしたく、未だ開催を躊躇されている団の皆様には先行事例を参考に、県連盟、地区の担当者をご相談いただき、少しでも早く取り組んでいただけますと幸いです。

「ボーイスカウト隊以上からでも参加しやすい仕組み

の構築」では昨年度検討した募集活動のあり方をもとにマニュアルを作成して、お配りできればと思います。同時にボーイスカウト部門では昨年、継続されないスカウトが多く見受けられましたので、その要因の究明と方策の策定を進められたらと思います。

「大学ローバーの発団要件の簡素化と卒業後にスカウトを地域団に繋ぐ仕組みの構築」では発団要件の簡素化が道半ばとなっていますので、歩みを速めてまいります。また、指導者の確保の観点からも卒業後地域団に繋ぐ取組みについても検討を重ねてまいります。

「『特色のある団』の設置の研究とその実証に関する取組み」では柔軟な活動形態の実現に向けて、実証を行っていただければと思います。

「2号会員への会員登録推進と情報発信の取組み」では2号会員制度の周知とOB・OG会員の獲得方法を検討してまいります。特に大学ローバーや団から離れている方への周知などを中心に進められればと考えています。

これらの施策を推し進めるための各団へのアクセスにつきましては、コミッショナーグループ、特に団担当コミッショナーとそれぞれの組織拡充関係者との協働を通じて行き、きめ細やかな対応で組織の強化を図ってまいりたいと思います。

■ ファンドレイジング委員会



委員長
井上 義雄
(京都)

ファンドレイジングは明日を動かす原動力に

いま日本社会では企業においては「企業の社会的責任」(CSR)からさらに一歩進んで、事業を通じた社会課題の解決へ取組みが進められています。NGOの代表が経済同友会の副代表理事となり、「共助資本主義」としてソーシャルとエコノミーの両立などが進みつつあります。

経済格差や世帯像の変化を受けて、家族のあり方が変わり、地縁・血縁が希薄となるなかで全国の子ども食堂の数は昨年末に9,000か所以上と公立の中学校数と肩を並べるまでになってくるなど、地域の繋ぎ直し、コミュニティの再生が進みつつあります。

私たちスカウト運動は、社会との連携を進めていくために社会課題をしっかりと認識して役立つ技能と心構えをしっかりと身につけた人づくりを行うと共に、社会の課題解決を他の担い手たち、NPO、NGO、行政自治体、企業、そして志をもった人々と協働して、Creating a Better World より良い世界を創り出していくことが期待されています。

「ファンドレイジング」は、単なる寄付集めではなく、団体が活動するための事業収入、会費収入、寄付収入、助成金などの財源を獲得するための「働きかけ」の総

称です。私たちは、何のため、誰のためにこの活動を行っているのか、ミッション・ビジョンに立ち返り、多くの人々の参画を得て実現するために共感を広げる「橋渡し」の役割を担っていきます。

[主軸となる進め方]

◆個人に向けて

OB・OGだけでなく、スカウトが挑戦する社会課題の解決に向けて、一緒になって応援しようとする方々を拡げていきます。また、災害支援は平時からの準備に備え、クラウドファンディング、遺贈寄付など、必要に応じて世界とも連携して希望される方々の期待に応えていきます。

◆法人に対して

企業や他の組織と一緒に、単一の団体だけでは生み出せない新たな価値の提供「コレクティブインパクト」を意識として連携を進めていきます。

◆地域に対して

県連盟は地域のスカウト団や隊を活性化させていくために大切な県域での中間支援組織です。地域の実状に応じた社会連携を支援できるようにしていきたいと思

■ プログラム委員会



委員長
川瀬 政美
(大阪)

これまでの2年間で取り組んできたことを、さらに検証、検討、深掘りしていくのがこれからの2年間だととらえ、プログラム委員会の2024年度が始動しました。

プログラム委員会の所管には、信仰奨励小委員会、BS・VSプログラム検討タスクチーム、音源制作タスクチーム、JOTA-JOTIタスクチームがあり、総勢30人以上、多世代の各チーム員が専門分野を活かして、プログラムを検討、推進してまいります。昨年度は、スカウトが自主的にスカウトソングの練習ができるようにと動画の公開や、JOTA-JOTIへの参加促進のためのセミナーの開催など、スカウト、隊指導者への支援を実施しました。これらについては、引き続き、継続しさらなるブラッシュアップをはかってまいります。

今年度も、第3期中長期計画や総コミッショナーから示された指針をもとに施策・事業を計画的に実施します。ボーイスカウト部門・ベンチャースカウト部門の進歩・進級の改定については、今年度内を移行期間とするため、引き続き、県コミッショナーと連携をとりながら、状況の把握と検証に努めます。一昨年から重要事項としており

ます、ローバースカウト部門の教育については、ローバースカウトハンドブック、RSリーダーハンドブック、スタートセミナー、これらの理解・普及と、災害支援を想定した集合訓練も継続し、ローバースカウトの可能性、ミッションへの発意促進につなげます。

また、新たな取組みとして「現代版のプログラム」とは、どういったものなのかについて研究し、目まぐるしく変化する現代社会に生きるスカウトたちにとって、どのような視点をもったプログラムであればよいのかということについて、信仰、環境、多様性、災害支援、地域・他団体との連携、ICTなど、多くの価値観を視野に入れて可能性を探っていきます。

引き続き、指導者の皆様に少しでもお役に立てるような、プログラムのアイデア集、活動のサポートツールなども提供することを継続し、AIS委員会と連携したセミナーやワークショップなども予定しております。

「より良い世界をつくる」ことができる人を育てるために、プログラム委員会は次世代を見据え、委員・チーム員が一丸となり邁進してまいります。

■ Adults in Scouting (AIS) 委員会



委員長
吉野 博樹
(愛知)

2023年度に引き続き、2024・2025年度のAIS委員長を拝命いたしました。以下に今任期の方針と抱負を述べます。

スカウティングを支える成人を増やすことはとても大変で、団におかれましては日々苦心されていると思います。

AIS委員会では前年度、日本連盟の「スカウト運動における成人に関する方針」（以下、AISという）の策定、「指導者に関する指針」、「指導者訓練体系」の改定をしました。

これらAIS等をご理解いただき、団の中で運用いただくことで、この運動に関わっていただく全ての成人の皆様一人おひとりのライフサイクル（人材の発掘・獲得→任務の実践→将来に向けた決定）が機能し、スカウトへより質の高いプログラムの提供につながるものとなります。

今期はこれらを実現するために、成人のライフサイクルの運用に活用できる資料やツールを制作しご提供いたします。

スカウティングは地域との協同・連携も重要であります。様々な分野の成人の皆様がこの運動を理解いただき、関わっていただくために他委員会とも連携し、事例収集や発信をしていきます。

現代社会ですっかり定着したe-ラーニング等ICTを活用した手法をトレーニングに取り入れ順次運用に向けた準備を実施します。また、AISの成人のライフサイクルの「任務の実践」において、トレーニングが必要で、身近に感じ、受けたことにより自身の成長が実感できる、そして各々の役割が達成できるようトレーニングシステムの見直しを図っていきます。

AISにおけるトレーニングの要であるトレーナーは年々減少しています。限られたトレーナーでどの地域でも同質のトレーニングを提供できるよう現行トレーナー制度や養成方法を見直し、さらなる資質の向上を図っていきます。

「AIS委員会」という名称となり3年目を迎えましたが、そもそもAISの理解促進は道半ばです。

全国県コミッショナー会議、コミッショナー懇談会（非公式）、教育推進本部会合や全団調査結果等を通じ、全国の団・隊指導者の皆様、地域の実情を踏まえ、AISの理念実現、成人の皆様が充実した任務実践が図れるよう新体制のAIS委員会、ディレクターチームで努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

■ ダイバーシティ & インクルージョン特別委員会



委員長
田村 聡子
(奈良)

「ダイバーシティ & インクルージョン特別委員会」委員長の任を仰せつかりました。創立100周年の大きな節目を経て、新たなる100年に向かい飛躍を遂げるボーイスカウト運動において、避けて通ることのできない課題を頂戴したと感じております。

ダイバーシティとは、直訳すると「多様性」となります。人種・年齢・性別・価値観・障がいの有無などさまざまな違いをもった人々が組織や集団において共存している状態を言います。変化の激しい時代を生き抜くためのカギとして、今、この多様性が注目されています。

インクルージョンとは、「包括」「包摂」などを意味し、人材の属性に捉われることなく平等に機会が与えられ一体感を持って働く環境があることをいいます。異なる知識やスキル、考え方を持つ人々が対話を通じて協力し、多様な解決策を見いだすことが可能となります。

つまり、誰もがその人の考える通りの意見が言え、あるがままの姿で行動することが認められる世界の実現だといえます。それぞれの立場や、性別や、思想にとらわれず受け入れられることはそもそもの世界スカウト機構、ボーイスカウト運動の定義にも謳われているところであります。

2023年4月に取りまとめられました第3期中長期計画にも示されていますように、「全てのスカウトへ配慮されたプログラム開発と人権教育の推進」に取り組んでまいります。

特に本委員会では、スカウト活動の現場で性差を意識することなく自由に意見が言え、活動に参画でき、研修や役務の機会が平等に与えられる環境づくりを目指します。また、そのための「ガイドライン」をお示しいとと考えております。

8月には第13回日本アグーナリーが、障がいの有無や老若男女にかかわらず、相互に人格と個性を尊重し支え合う「共生する社会」を実現するという社会のニーズに応えることを目指して開催されます。大会に参加するすべてのスカウトや指導者、地域の方々にとって意義深い大会になるよう支援して参ります。

本委員会は単独で成立するのではなく、プログラム委員会や AIS 委員会、セーフ・フロム・ハーム推進協議会など他の委員会との連携が必要となります。新たなる100年を目指し、次代のスカウト運動のために尽力いたします。どうか皆様のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

■ DX タスクチーム



チーム長
只野 太一
(東京)

DX タスクチーム チーム長に就任しました只野太一と申します。

私はコロナ禍直前の2019年よりDX推進室メンバーとして、日本連盟のデジタル分野に関わってまいりました。その間、活動したくてもできない時期がありました。しかし、そのような状況下でも、デジタルツールを活用して全国の仲間たちと繋がることができたことは、かつて経験したことのない喜びでした。コロナ禍は辛い期間でありましたが、大きな転機でもあったと思っています。今までアナログでやっていたことが「これ、デジタルでできるよね」と多くの人のマインドチェンジの機会になりました。オンライン会議が一般化したことはその最たるものです。

DXはデジタル・トランスフォーメーションの略称であり、その目的は組織全体で新しい価値観や変革を生み出すことにあります。

このDXのプロセスは大まかに

1. デジタイゼーション (局所的デジタル化)
2. デジタライゼーション (組織的デジタル化)
3. DX

という三段階を経ますが、現時点では、日本連盟はまだデジタイゼーションの段階にあります。

デジタル化を推進することで、スカウティングをより効率化する機会が多く存在します。しかし、その過程で重要なのは、野外で行うスカウト活動をデジタル化するのではなく、より効率的にスカウト教育を推進できる基盤を整えることです。

デジタル技術を駆使して、そうした基盤作りに取り組むことが、DXタスクチームの使命であると考えています。そうすることで日本のスカウト運動が更に発展することができると思っています。

チームメンバーや関係する委員会の皆さんとも協力して取り組み、デジタルのチカラを推進力にすることでスカウティングの未来がより良い方向に向かって進んでいけると考えています。

日本連盟の一員としてデジタル・トランスフォーメーションの推進に全力を尽くしてまいります。

「危機管理委員会」を設置

災害即応体制を整備

2024年は能登半島での大地震で明けの厳しい年となりました。災害が頻発するようになり、万が一に備えた体制の整備が求められています。また、災害だけでなく日本連盟が直面するさまざまな緊急事態にも対応する必要があります。これまでも「危機管理委員会」の規程はありましたが、問題が発生した後に委員会を設置することになっており、即応性に欠ける懸念がありました。

2024年1月の理事会で規程を改正し、危機管理委員会を常設委員会に準じる組織として設置することにしました。委員長は理事長ですが、実務を担う責任者として、危機管理担当理事を「委員長代理」として明記、他に専門家など学識経験者を委員や副委員長に据えることを可能にしました。

4月1日から設置されますが、能登半島地震への対応も急がねばなりませんでしたので、理事長の裁可を得て、村田禎章総コミッショナーの下に「能登半島地震対応タスクチーム」を設置、能登半島でのボランティア活動を、ひと足先にスタートさせました。石川県連盟と共に全国の県連盟からのボランティアが現地に入って、他のボランティア団体などと共に復旧作業に従事しました。このタスクチームは3月末をもっていったん解散しましたが、今後も災害対応に即応できるよう、「災害対応タスクチーム」を新たに設置し、各地で災害が起きた場合に、情報収集を担い対応を検討する「司令塔」機能を担うことにしました。

2024年度は、委員長代理に水戸守雅之・法務担当理事が就任、専務理事、常務理事、総コミッショナーなどが委員に名を連ねます。危機管理規程をさらに改正整備する一方、さまざまな「危機」を想定したマニュアルの整備などにも取り組む予定です。

感謝

能登半島地震に関して、街頭での「義援金」呼びかけのほか、被災県連盟への「見舞金」、日本連盟の災害支援活動に対する「支援金」へ、全国から数多くのご支援をいただきましたことを感謝申し上げます。



2024年1月1日に能登半島地方を震源として発生した巨大地震(推定マグニチュード7.6、最大震度7)は、北陸各県および新潟県に大きな被害をもたらしました。

過去にアグーナリーや2度の日本ジャンボリーの会場となった珠洲市では、死者103人、全壊半壊を含む損壊家屋が13,000棟以上、道路の損壊、電気や上下水道等の社会インフラに甚大な被害を受けました。

これを受けて、ボーイスカウト石川県連盟ではいち早く被災地の支援活動を開始し、2月10日には、現地支援本部(珠洲ベース)をりふれっしゅ村鉢ヶ崎に立ち上げました。

ボーイスカウト日本連盟では、この石川県連盟の被災地での活動を支援するため、危機管理委員会に能登半島地震対応タスクチームを設置し、現地状況の確認や、石川県連盟との打合せを重ね、2月末に全国の加盟員に向けて被災地支援ボランティアの募集を開始しました。

3月1日には、最初の応募者が珠洲市ボランティアセンターに入り、現地での支援活動を開始しました。

珠洲ベースに設置されたテント村に宿泊しながら、被災された方から依頼のあった、家屋の片づけや廃棄物の搬出運搬作業に従事しています。

ただ、奥能登という元々アクセスしにくい地理的な条件に加えて、地震の被害が甚大であり、被災された方の個人宅の片づけは遅々として進んでいません。

石川県連盟を除いて108人の方(3月末時点)がボランティアにエントリーされていますが、まだまだ人の手が必要な状況です。

今後、復旧復興のフェーズが進めば、被災地のニーズも多岐にわたって変化していきます。

元の能登半島に戻るためには長い時間が必要ですが、引き続き、被災地を忘れることなく、被災された方に寄り添った支援を続けていきましょう。

4月以降、新たな活動ベースでボランティア募集を継続していきます。

ジャンボリーの地に恩返しを。

みなさんの想いを力に変えましょう。

よろしくお願いします。

牧島 宏之 危機管理委員会 能登半島地震対応タスクチーム 珠洲ベース担当

第51回

全国ボーイスカウト写真コンテスト

入賞作品発表!

2023年度は世界スカウトジャンボリーや日韓スカウト交歓計画など大きな行事もあり、全国各地より多くの応募がありました。入賞作品を榊原委員・古市委員・尾崎委員のコメントとともにご紹介します。 撮影者のコメント 審査員のコメント



思い出の一まい

藤井 櫻子 神奈川・川崎第43団 カブスカウト

ボーイスカウトが大好き！と思っている笑顔をとりました。

画面からはみ出すように笑顔を撮っているのが良い。はじける笑顔とはまさにこのこと。楽しい雰囲気から写真を撮る人と撮られる人の信頼関係が伝わってきました。



えだまめの中からこんにちは

岡本 実央梨 兵庫・尼崎第7団 カブスカウト

ハンモックが緑で枝豆のように見えていてハンモックから少し出ているからタイトルを「えだまめの中からこんにちは」にしました。

色が目を引く写真ですね。ハンモックを枝豆と見立てた発想が良い。作品として成立しており、全体の構図や枝豆に見立てたところに物語性を感じました。



無名戦士に敬礼!

向山 京佑 神奈川・横浜第95団 カブスカウト

こどもの国とボーイスカウトに縁があることを知りました。

現場に行き行ってボーイスカウトの歴史などを学ぶことで自然とこのポーズが出てくる、その姿にボーイスカウト精神が出ているなと感じました。さりげない視点で寄りもせず引きもせず丁度よい距離感で撮られています。ボーイスカウトならではの感じが出ていいなと思いました。



入選 ロープ技能を身に着けよう

金井 仁花
東京・大田第17団
カブスカウト



入選 太い木をがんばって切っている人

中村 隆
神奈川・鎌倉第2団
カブスカウト



入選 みんな仲よし

辻村 享一郎
神奈川・鎌倉第2団
カブスカウト



入選 たけのことったぞ~!!

久保 亮我
宮崎・都城第1団
カブスカウト



入選 NAKAMA!
石川 綾華
兵庫・西宮第1団
ベンチャースカウト



入選 カメラに向かってパッション!
桑田 唯知花
兵庫・加東第5団
カブスカウト



入選 今年から妹もビーバー仲間入り!
酒井 大輝
静岡・大仁第1団
カブスカウト



青年成人の部 (高校生以上) 【応募総数 131点】

最優秀



真剣勝負

氷室 暁麻 神奈川・川崎第53団 ビーバー隊副長

◎ 自然の中、手作りのパチンコ台で真剣勝負をする兄弟。成長してもこのままわんぱくで仲睦まじくあり続けてほしいです。

■ すごくきれいな光の中でこの子達を写すのに最も適した場所でカメラを構えて撮っています。森の中のきれいな空気まで感じられ、写っている子たちもカメラを全く意識していません。その時の情景がそのまま出ています。この場にいるような気分させてくれる写真です。

優秀



そのノリ、大人が忘れたもの

岡田 陽子 和歌山・橋本第2団 カブ隊保護者

◎ 隊長から解散の合図を聞くやいなや、スカウトたちはそのまま隣に流れる小川へ直行です。濡れることを心配してしまう大人ですが、そんなの関係ねえ！そこには大人から見れば羨ましさをも感じる素直さがありました。

■ 水遊びしている声が聞こえてくるようです。動きのある画面で一緒にやってみたいと引き込まれる写真ですね。前が明るく後ろが暗い対比が出ていて、冷たい水の気持ち良さを表現できています。

優秀



SHOW ~笑~

刺田 昂太 愛媛・砥部第1団 ベンチャースカウト

◎ 25WSJの開会式に行く道中で撮った1枚！みんなの4年に1度のSHOWに向け、昂る気持ちが顔に出ているベストショットです！

■ まさにみんなの一体感が出ていますね。太陽に負けないくらいの素敵な笑顔。この時この瞬間でしか取れない写真ですね。自撮(じどり)独特の水平線が斜めの感じがまた良い相乗効果を出していますね。



入選

うまくとれたかな
奥野 靖隆
神奈川・川崎第43団
カブ隊副長



入選

初夏の陽ざしに包まれて
氷室 暁麻
神奈川・川崎第53団
ビーバー隊副長



入選

焼き芋、最高！
今木 麻理子
神奈川・横浜第130団
ビーバー隊隊長



入選

目指せ「自転車博士」
大場 憲子
神奈川・伊勢原第2団
カブ隊保護者



入選

Teaching KENDAMA
富澤 昇太
兵庫・西宮第21団
ローパスカウト



入選

やさしさが必ず届く
赤い羽根
苦瓜 一夫
兵庫・姫路第6団
団委員長



入選

立山登山目指す朝
兼松 恵美
奈良・奈良第17団
カブ隊デンリーダー



オンラインの部 **【応募総数 194点】**

オンラインの部には194点もの投稿をいただきました。期間中に投稿いただいた作品の中から、広報委員会にて選考した作品の中から上位8作品が入賞しました。

最優秀



繋ぐ。29年目の黙祷の会にて

川端 かわり 兵庫・神戸第54団 団委員

◎ 阪神淡路大震災黙祷の会の運営を地区の防災福祉コミュニティから神戸第54団が引き継いで5年目。今年もボーイ隊員が用意した燭台にたくさんの光が灯りました。

総評として

ボーイスカウトならではの感じが出ていて、その時・その瞬間でしか撮れないというところが良かったです。特に、楽しさの伝わる写真が多かったです。また、写真を撮る人と撮られる人の距離感が良いですね。

コンテストに向けてよりも「自分達の活動楽しいんだよね!」が伝わる写真はどうやって撮るのだろうと考えると撮り方が変わってくると思いました。

審査委員の紹介



神原 透雄 (さかきぼら ゆきお)

自然・風土・旅をテーマとして国内外の撮影をしている自然派写真家。中でも日本の島々の取材を長年続ける。1980年代からは小笠原の魅力にはまり、今なお熱が冷めることなく撮影を続けている。
日本写真家協会 (JPS) 会員



古市 智之 (ふるいちともゆき)

新聞社のカメラマンを経てフリー。2013年度キヤノンカレンダー作家。第64回日本カレンダー展にて日本印刷産業連合会会長賞受賞。雑誌への執筆や各種フォトコンテストの審査員を多数務める。
日本写真家協会 (JPS) 会員



尾崎 憲和 (おざきのりかず)

日経ナショナル ジオグラフィック書籍編集長。1992年、早稲田大学第一文学部卒。金融系専門誌、IT専門誌およびWebメディアの編集者を経て、2012年に日経ナショナル ジオグラフィックに転出。2015年より現職。太極拳の指導員。

※ 撮影者の所属等は応募時のものです。
※ タイトル、撮影者コメントは応募時の表記をもとに掲載しています。
※ プライバシー保護のため、一部加工しています。

優秀



1番になるで!
~自作台車レース~

米田 美紗 兵庫・神戸第54団 保護者

◎ カブ隊ビーバー隊の交流会、6組対抗台車レース。破壊しながらも完走する組、役割の作戦を立てながらも最後ははちゃめちゃんになる組、フインプレーありの組あり! とにかく楽しい交流会になりました。



入選 **梅の実に届け**
阿部 瞳

宮城・名取第1団
カブ隊副長



入選 **ぼくもスカウト**
山岡 舞

東京・大田第3団



入選 **焼き芋、**
オリエンテーリング
鈴木 勝

愛知・常滑第4団
ボーイスカウト隊副長



入選 **我が隊のピカソ**
兼松 義明

奈良・奈良第17団
カブ隊隊長



入選 **パッタのオリンピック!**
伊藤 茂

大阪・大阪第71団
団委員長



入選 **カブスカウトに襲われる**
ベンチャースカウト
浅野 義夫

京都・京都第92団
カブスカウト隊副長

Canon

全国ボーイスカウト写真コンテストでは毎年、キヤノン株式会社に賞品提供のご協力をいただいています。

2023年度 スカウト特別海外派遣概要報告

プロジェクト名

「遊び」の源を探しに ~ヨーロッパの遊び場からみるわくわくが生まれる場作り~

派遣期間 / 2023年9月10日(日) ~ 9月28日(木) 19日間 派遣国 / ドイツ、デンマーク

わたしが子どもの遊びに興味を持ったのは、ベンチャースカウトの時にビーバー隊の活動奉仕に行った際、苦手意識を持ちがちなロープワークのプログラムに遊びの要素をたくさん入れることでたのしい活動になった事がきっかけでした。その後、活動を通じて子どもの遊びを支える環境的要因に強く興味を引かれるようになり、今回、遊び研究の先駆けであるドイツ、デンマークを選びました。

訪問先のドイツ・ミュンヘンでは、主に日本に繋がりのある子どもたちを対象に行っている育児サークルがあり、日本とドイツの幼稚園・小学校の仕組みの違いや、育児の様子の違いなどを知る機会を得ることができました。日本人幼稚園では先生との話の中で、何度もクリエイティビティ（創造性）を幼少期に育ててあげることの大切さや自然とできる限り触れ合うことの重要性を指摘され、ボーイスカウトでの自然と関われる機会の大切さをあらためて認識しました。

そのほかに、グリースハイムでは、街全体が「遊

べる街」として子どもたちが遊びながら安全に通れる道が多くあり、フランクフルトでは学びを押し付けるのではなく、自分たちで楽しく掴み取っていけるような工夫が随所にされている子どもミュージアムがとても印象に残りました。

デンマークのオーフスという街では、子どもの遊びを専門的に考えるペタゴと呼ばれる生活支援員が学童でのプログラムや子どもたちがもっと楽しく過ごせるような環境設定している学童施設があり、またオーデンセという街では、アンデルセンの話をモチーフにした遊具や日本の一般的なものよりも一回りほど大きいネット遊具などを見つづけることができました。

その他の地方都市で地元のスカウト活動なども見学し、有意義なプロジェクトにすることができました。

最後になりますが、この派遣の実施に際し、ご支援いただきましたすべての方々へ深く御礼を申し上げます。

神奈川連盟

藤沢第12団ローバー隊

野元 心結



プロジェクト名

ニュージーランドと日本の自然・伝統・現代社会の三者共存

派遣期間 / 2023年12月27日(水) ~ 2024年1月21日(日) 26日間 派遣国 / ニュージーランド

私は富士プロジェクトにおいて六甲山についてそれぞれの山の概要や登山ルートなどについてまとめた本を作成した経験から、自然・伝統・社会の三者の調和と共存に興味を持ちました。これを他国の例に学び改善に取り組みたいと感じ、先住民族の文化と現代社会が両立できているニュージーランドを選びました。

自然を肌で感じることができるマウンテントレッキングでは火山地帯ゆえの荒涼で砂地か、あるいは小石の道を重い荷物を持って長時間歩いたために肉体的にも精神的にも大変苦しい体験になりました。ですが、そのような状況の中でも山小屋での登山客との会話やマオリ族と自然との関係を考察し、コース封鎖の影響でルート変更を余儀なくされたものの最後まで歩ききることができた達成感から、わたしにとっては大いに価値のあるトレッキングでした。

またトレッキングの前には、同時期に開催され

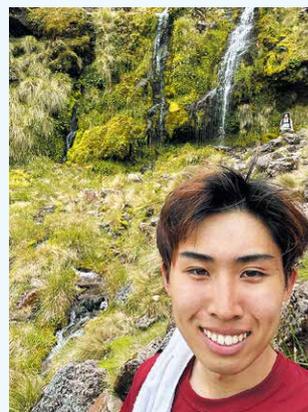
ていた第23回ニュージーランドジャンボリーにもISTスタッフとして奉仕することができ、昼夜の寒暖差に苦しみながらもスタッフの仲間や参加していた他国のスカウトとも会話し、ニュージーランドの様々なことが学べたのはとてもよかったです。

私にとって今回の海外派遣は心身ともに成長できるものでした。はじめは無事に派遣を終えられるか不安で非常に緊張していましたが、どこへも行けるような自信と強い心身を得ることができました。このような派遣ができたのは、やはりこの機会をあたえてくださった方々、計画の支援をくださった日本連盟や地区、自団の方々、現地で支えてくださった方々の存在が欠かせません。心より感謝いたします。また、この派遣を自分のものだけにするのではなく、この経験をできるだけ多くの人に伝え、同じような経験を後輩ができるよう支援していきたいと思います。

兵庫連盟

西宮第13団ローバー隊

貝原 汰一



2023(令和5)年度 第42回

富士スカウト代表表敬

2023年度の富士スカウト代表表敬を、次の日程でそれぞれ実施しました。

代表スカウトは訪問前に都内へ集合し、準備集会を経て表敬訪問に臨みました。

赤坂東邸

富士スカウト代表が赤坂東邸へ表敬訪問し、秋篠宮皇嗣殿下からご接見を賜りました。ご懇談では、秋篠宮皇嗣殿下がスカウト一人ひとりとお話しになられ、代表スカウトがお礼と決意の言葉を述べ、弥栄を贈りました。また、殿下よりお言葉をいただきました。



写真提供:秋篠宮家



写真提供:秋篠宮家

日時 3月25日(月) 10:00～11:30

場所 赤坂東邸

参加者 代表スカウト26県連盟 47人

水野正人理事長／佐野友保専務理事／出田行徳常務理事
松平頼昌国際コミッショナー／川瀬政美プログラムコミッショナー 他



首相官邸

富士スカウト代表が首相官邸を表敬訪問し、岸田文雄内閣総理大臣から励ましの言葉と、盛山正仁文部科学大臣から激励の言葉をいただきました。代表スカウトによる決意の言葉を述べ、両大臣へ弥栄を贈りました。

日時 3月27日(水) 14:40～14:55

場所 首相官邸

参加者 代表スカウト15県連盟 47人

ボーイスカウト振興国会議員連盟より

逢沢 一郎 会長

塩谷 立 副会長・事務総長

笠 浩史 理事・事務局長

山本 ともひろ 理事・事務局次長

ボーイスカウト日本連盟より

水野正人理事長

出田行徳常務理事

川瀬政美プログラムコミッショナー 他

夏季活動用 ポロシャツ登場

オンラインショップ、他にて6月下旬頃発売予定

ボーイスカウト部門以上のスカウト、指導者向けに夏季活動用のポロシャツが新登場！

暑い夏にも活動がしやすいように、速乾性に優れた生地を使用しました。

みんなで揃えて着用し、快適なスカウト活動を楽しみましょう！

着用に関する詳細は、4月のコミッショナー通達をご確認ください。



SCOUT ASSOCIATION
OF JAPAN

販売価格（税込）

2,420円

サイズ展開：150/155/160/165/170/175/180/180X/特寸

ローカルホットライン Local Hot Line

団・地区・都道府県連盟だより

- … 団
- ☒ … 地区
- … 都道府県連盟
- ◇ … その他

京都 □ 当団のスカウト2人が 京都府城陽市役所へ市長への 表敬訪問にまいりました

城陽第1団 団委員長 祝部 昭夫

ボーイスカウト城陽第1団では、この度京都連盟主催の韓国京畿南部連盟派遣への参加スカウト（BS 隊：藤原渉登さん）および障害者週間における「心の輪を広げる体験作文」の寄稿により内閣総理大臣表彰を授賞したスカウト（BS 隊：師橋ひよりさん）2人とともに、1月9日地元城陽市役所へ表敬訪問に訪れました。市役所では、奥田敏晴城陽市長、北沢義之教育長が応対いただき、地元の次世代を担うスカウトたちとしばし歓談されました。派遣スカウトから現地での生活や文化の違い等の話を聞かれ、市長からは「城陽市も韓国慶山市と姉妹都市であり、ぜひ、また韓国に行ってお互に交流を深め国際感覚を磨いてください」とのメールが送られました。また、障がいがある兄（注：昨年まで兄も加盟登録あり 母親も同様に昨年迄、指導者登録あり）について作文を寄稿し内閣府総理大臣表彰を授賞したスカウトへは、教育長から「作文を読み家族の温かさを感じる事が出来ました。スカウト運動を通じていろいろな人に出会い随分世界も広がったようですね」と優しく語り掛けていただき授賞の快挙を称えていただきました。



洛タイ新報（2024年1月11日掲載）第21056号



茨城 □ 能登半島地震の義援金募金活動

守谷第1団一同

能登半島地震に被災された皆様ならびにご家族の皆様には心からお悔やみ申し上げます。

茨城県連盟守谷第1団では、1月14日、21日、2月4日に募金活動を行いました。1月14日は毎年参加している守谷市高野地区行事「あわんどり」にて、1月21日は守谷駅とヨークベニマル守谷店にて、2月4日は毎月開催される「もりや朝市」にて行いました。募金に協力してくださった守谷市の皆様の思いに、昨年の「守谷市商工まつり」出店の収入の一部を合わせ、403,581円を義援金としてお届けいたします。

守谷第1団は、これからも継続して支援を募って参ります。そして、今なお懸命に戦っている方々に1日でも早く安心できる日が訪れることを切に願っております。



富山 □ 災害ボランティアを行いました

氷見第2団 ボーイスカウト隊長 東海 直樹

元日の能登半島地震では、半島の付け根にある富山県氷見市でも、海岸沿いを中心として地盤の液状化がおり、多くの建物が全壊や半壊となりました。

水道が復旧して自分たちの生活が落ち着いてきたため、スカウトが中心となって災害ボランティアへの参加を計画し、2月23日にスカウト6人・指導者1人で活動しました。

氷見市ボランティアセンターに集合し、ボランティア保険の手続きやオリエンテーションののち、床下に砂が噴き出した住宅の砂のかき出し作業を行いました。

関東から来た大学生のボランティアグループと協力して作業にあたり、4トン程度の砂をかき出し、床下をきれいに整地することができました。

東京 □ ビーバー隊だけで作ろう！ ピタゴラスイッチ

青梅第4団 ビーバー隊隊長 小山 賀尉

ピタゴラスイッチは普段ならカブ隊、ボーイ隊と一緒に屋外で作っていますが、今回はビーバー隊だけで作ろうと計画しました。家庭で捨てられるペットボトル、ラップ芯、段ボール等々を持ち寄り、市民センター会議室に集まりました。ビー玉をゴールまで転がすコースを作ります。どんなものができるかわかりません。正解が無い所が面白い工作です。分担して作るコースを決めて、ビーバーは保護者として作り始めます。ビーバーも色々なアイデアを出しますが、失敗、失敗また失敗。何回も挑戦して、難しいところは保護者の手を借りて、分担コースは完成しました。そして全長12メートルの長いコースが会議室全体に出来ました。コースの途中には鉄琴や、サラダボール、トミカ電動スロープ等が取り付けられ、随所にアイデア、工夫が見られます。ゴールではビー玉がピタゴラスイッチのマークを出してフィニッシュ！ビー玉がノンストップで転がるピタゴラスイッチの完成です！



香川 □ 祝！香川大学ローバース発足

高松第16団 ローバー隊 石田 大輝

私たち高松第16団は香川連盟として2番目となる大学ローバー隊として今年の1月に発団いたしました。現在は12人のローバースカウトがうどんをエネルギーに香川のボーイスカウト運動を盛り上げるべく活動しております。香川大学ローバースは一昨年の12月から約1年の準備期間を経て大学の公認団体そして高松第16団として発足することができました。新入部員の獲得や活動を継続・維持していくことの難しさなど、ここに至るまでたくさんの壁を乗り越えてきました。ここまで来ることができたのはボーイスカウト香川連盟をはじめたくさんの協力して下さった方々がいたからだと思います。これからは地域活性化を軸に香川大学ローバースを大きな団体にし、途切れることなく継続していくための礎を築いていきたいと思っています。また、すこしずつではありますが協力していただいた方々へ恩を返していけたらと思います。最後に、高松第16団ならびに香川大学ローバースをどうぞよろしくお祈りします。

神奈川 □ 箱根駅伝走ったローバーを団で応援 = 本人と団の夢が実現

横浜第96団 団委員長 中川 和之

お正月の恒例行事の箱根駅伝に、ボーイスカウト横浜第96団ローバー隊の原田洋輔スカウトが、東京農業大学チームの一員として走ったので、団で応援をしてきました。団のスカウトたちが書いた応援メッセージや県連ののぼり旗を掲げて大声での応援に、軽く右手を挙げて応え、あっという間に走りすぎていきました。

結果は区間19位で、「悔いしか残らないレースでしたが、皆さんの応援は本当に嬉しかった」という言葉と共に、来年へのリベンジを誓うメッセージが本人から即日、団に届きました。

ビーバーから活動して、ボーイ時代は菊章を着けて17NSJに班長として参加し、中学までは熱心にスカウトで活動。両立しやすい部活の陸上部でもがんばって高校に進学し、そこで陸上を鍛えて農大に推薦入学して2年目で箱根出場を果たしました。

駅伝で走った4区は、ボーイ時代に箱根から地元の横浜・戸塚までハイキングしたルートと同じ。その時のスタートは、原田班長の夢も踏まえて箱根駅伝ミュージアム前から。団のエリアが旧東海道沿いで、チーフにやっこさんをデザインしている96団としても夢の実現でした。





アイコン説明

- 舎営ができる
- 携帯電話が使える
- 食事施設がある
- 駐車場あり
- 川遊びができる
- 男女別のトイレがある
- 営火ができる
- その他

神奈川県相模原市緑区佐野川1822

都心から70分のリフレッシュゾーン **桐花園**

<http://www.tokaen.jp>



この号持参でキャンプファイアサービス !!

相模湖に近く、陣馬山、生藤山の麓に位置する緑に囲まれたキャンプ場です。

カブパック ※2泊以上 小人 ¥6,600 (1泊3食・税込)・寝具お持ち込みの場合 ¥6,200 (税込) / 大人 ¥7,200 (1泊3食・税込)・寝具お持ち込みの場合 ¥6,800 (税込)。
 *バンガロー・寝具(シーツ付)・入浴・食事付
 *3食の中で一部自炊やカブ弁当も料金内で可能です。
 *ゴミ処理代含む、駐車場代有り



T 0426-87-2239
 F 0426-87-3159
 M info@tokaen.jp

■収容人数/バンガロー・キャンピング200人[35棟]、民宿・合宿所80人、テント[10張] ■営業期間/通年 ■アクセス/中央自動車道相模湖ICより4km、JR中央線藤野駅より送迎あり



福島県耶麻郡裏磐梯五色沼入口1074-511

磐梯山一望 6,000坪 **みちのくキャンプ場**

<http://www.r-michinoku.com>



T 0241-32-2109
 F 0241-32-3000
 M rim@agate.plala.or.jp

五色沼へ徒歩7分 リゾートインみちのく 60名収容 各種イベントご相談ください

- ・標高800mの裏磐梯は山と湖の国
- ・多彩なプログラム作成が魅力
- ・80帖の多目的ホール完備(雨対策)
- ・みちのくマイクロバス(29人乗)所有
- ・コース間の送迎もスムーズに!!
- ・キャンプファイヤー場有り
- ・磐梯山一望の露天風呂(檜・岩)有り
- ・野営・舎営の合同キャンプも可能
- ・ぜひ、下見にお越しください



6,000坪の野営場は自然豊かな高原リゾート



磐梯山一望



リゾートインみちのく60名収容

■収容人数/野営場6,000坪 ■営業期間/通年 ■アクセス/磐越自動車道猪苗代・磐梯高原ICよりクルマで20分。JR猪苗代駅より東都バスで五色沼入口下車、徒歩7分



なんでも投稿先(ローカルホットライン)の掲載場所と投稿規定変更のお知らせ

ローカルホットラインにたくさんのご投稿をいただき誠にありがとうございます!!

ローカルホットラインはみなさまの普段の活動を全国の仲間にお伝えできる素晴らしい機会であり、皆様のご投稿が全国の指導者の方々の活気に繋がっていることと存じます。

今まで機関誌「SCOUTING」に掲載しておりましたローカルホットラインは、今後 Web ページへ掲載することとなりました。また投稿規定も変更となりますので併せてご確認をお願い致します。

なんでも投稿先

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟事務局

「スカウティング」担当

〒167-0022 東京都杉並区下井草4-4-3

☎ 03-6913-6262(代表) ✉ scouting@scout.or.jp

投稿規定

- 文字数 400 字まで
- 写真は 3 枚まで
- 新聞掲載の場合は新聞社に掲載の許可をとっていただいたもののみ

掲載時期などの関係もあり、必ずしも掲載されるとは限りませんので、その点をご了承くださいませ。なお掲載が決まりましたらご連絡させていただきます。引き続き、皆様からのご投稿をお待ちしております。

日本連盟ホームページ <https://www.scout.or.jp>

訂正とお詫び

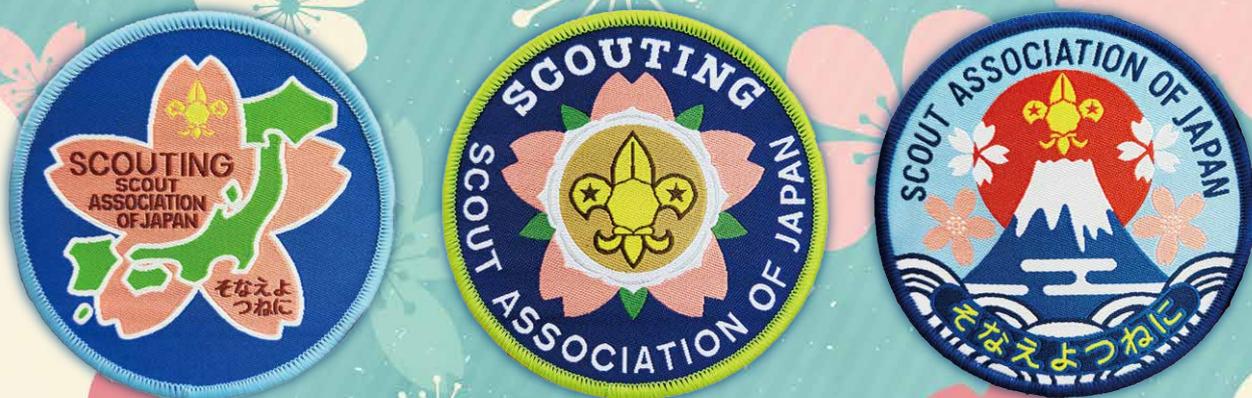
機関誌3月号P7のウッドクラフトコース開設案内の「ろくろしの森キャンプ場」の所在市を「穴栗市」と誤って記載致しました。深くお詫び申し上げますとともに、ここに訂正内容を記載させていただきます。
 誤: 穴栗市 正: 粟栗市

SCOUTING デジタル配信しています!



機関誌「スカウティング」のデジタル版(PDF)を、読者の皆さんを対象に配信しています。デジタル版は、文字をコピーできますので、さまざまな資料に、簡単に引用できます。また、タブレット端末などに入れ、いつでも読むことができます。ぜひご活用ください。

新作SAJワッペン3種登場!



桜・鏡・富士山 各種 286円(税込) サイズ:直径 80mm

好評販売中! 商品詳細は公式オンラインショップへ
 【SCOUT SHOP JAPAN】 <https://www.scoutshop.jp/>

スカウトイング
 昭和33年12月15日 第3種郵便物認可
 令和6年5月1日発行(寄附月1日発行)

発行 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟
 〒167-0022 東京都杉並区下井草4-4-3
 電話 03(6913)6262(代)

定価 200円(税込)
 郵便振替 00130-1-66119
 口座名義 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟



New item!

吸水ソックス(2足組)

足サイズ
19~25cm

1,100円(税込)

子供サイズの新ソックスが登場! 吸水性に優れた生地で
 野外活動に最適です。2足セットの大変お得な商品!



SCOUT SHOP JAPAN

Official Shop of the Scout Association of Japan

